

ふりがな 氏名	とば やすゆき	都道府県	宮城県	
	戸羽 康幸			
所属/肩書	気仙沼市立階上中学校／教諭			
私の ESD活動	【防災学習】 テーマ：私たちは未来の防災戦士～『自助・共助・公助』の学びと『つながり』の大切さを通して～			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

所属校である階上中学校では、総合的な学習の時間を使い、ESDの視点を踏まえながら防災学習に取り組んでいる。東日本大震災以前から学習を始めており、災害発生時および発生後に、自分の身を守るために自分のできることや、地域の一員として、地域住民と協力してできることは何かを、「自助・共助・公助」の視点から考え、防災意識を家庭から地域へと波及できる防災リーダーを育成することを目標としている。また、1年ごとに視点を「自助」「共助」「公助」と設定し、中学校3年間で1つのサイクルで学習できるように取り組んできた。

震災の際、3年間防災教育を受け本校を卒業した高校生や帰省していた大学生が、中学生の指揮をとって活動した。避難所運営の組織ができあがった後もボランティア全体の動きの統率を任される者もあり、避難所の運営を積極的にサポートする者も多く見られた。

また、震災前から地域との合同訓練をしていた成果により、毎朝、各部署や地域の代表者で打合せを行い、避難所の運営や清掃、食事の準備などを組織的に取り組むことができた。

震災後は、まずは自分の命を守ることを最重視し、「自助」「自助を基盤にした共助」「自助を基盤にした公助」を1年ごとに学習する新たなサイクルで活動している。震災時の多大な被害、とくに人的被害を防ぐ、減らすためにも、勝手な『思い込み』をなくし、その時、その状況において最適な判断ができる生徒の育成を目指している。

2012年12月7日17:18に大きな地震が発生し、津波警報が発表された際には、部活動に取り組んでいた生徒がそれまでに学んできた知識や訓練を基にし、率先して体育館の避難所開設に取り組み、200人を越える避難者を迎え、スムーズに対応することができた。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

大人－大学生－高校生－中学生という年代を超えたつながり、また、市－学校－地域－ボランティア－NPO・NGOといった組織を超えたつながりが震災直後の生活を支えていた。これらのつながりを構築できたのは、防災教育の取り組みを、何年も継続してきたからこそであると考え。今後はESD(持続発展教育)をいかに持続していくかということと、そのために単調な活動にならずにその都度改善を加え、活動を発展させていけるかが大切であると考え。

そのために若者としては、これまで受け継がれてきた活動を継承することが不可欠であり、さらにインターネットをはじめとした便利なツールを利用し、広く普及させていく役割を担うことができると考える。同時に、私は教師という立場から、現代の若者から次の世代となる子供たちに対して、さらに社会を発展させていけるような人材へと成長させていくことが必要であると捉えている。